

に似て居るが花序の部分に全然葉の無い事と花の小にして密生する事、葉の卵状披針形なる點で充分區別し得べきものと認めこの變種を種と認める事にした。

(29) **ユウシュンキエビネ** (*Calanthe Yushuni* YAMAMOTO et MORI, sp. nov.) は先年故工藤尚舜教授と森邦彦助手の採集されたもので臺東廳出水坡海成約 4000 呎に産する。彼のササバキエビネ (*Calanthe Kazuoii* YAMAMOTO) に似た植物であるが葉の廣大なる事、唇瓣の中裂片は単一で尖端は截形で且つ波狀縁をして居るので區別し得べき新種である。

(30) **ヘンリーイモ** (*Amorphophalus Henryi* N. E. BROWN) は高雄附近の山地で新村信次郎氏が採集して寄贈されたもので當植物園で栽培しこの四月に開花したものである。HENRY 氏始めて高雄で採集し N. E. BROWN 氏の發表したものである。立派な花の咲いたのを幸に花の充分の記載をして原文を吟味したのみである。

(31) **キムラオホバコ** (*Plantago major* L. var. *Kimurae* YAM. var. nov.) は *Plantago major* L. に酷似して葉の大形なる事、總狀花序の長大なる事、種子は通常、12 箇なる點で區別しその變種とした。又全形は彼のトウオホバコ (*P. japonica* FR. et SAV.) に似て大形であり、又種子の數からは *P. major* var. *normalis* MIQ. に一致して居る。*Plantago* 属は非常に變りものが多くて鑑別頗る困難であるのでとくに稍詳細な記載文を附し後の研究に供する事にした。(續く)

昭和七年五月二十五日

臺北帝國大學理農學部植物學教室

SYMBOLAE FLORAE AUSTRALI-JAPONICAE I.

Genkei MASAMUNE

(Received for publication May 6, 1932)

(1) *Lysimachia nigropunctata*, MASAMUNE, sp. nov.

Herba repens ad nodos radicans, tota pubescens. Folia alterna petiolata, petiolis ca. 3 mm. longis, ovata vel ovato-rotundata apice obtusa haud acuta basi cordata vel rotundata, 3-10 mm. longa, 3-7 mm. lata utrinque pubescentia. Flores ad axem foliorum solitarii pedicelati. Carex obconicus 5 partitus segmentis lanceolatis ca. 5 mm. longis 2 mm. latis, navicularibus, nigropunctatis, extus pubescentibus, intus glabris. Petala 5 rotundato-obovata, nigropunctata, basi cuneata. Stamina 5 tubo corollae affixa, filamantis 1-3 mm. longis glabris. Antherae ovato-oblongae ca. 1.5 mm. longae. Ovarium glabosum vix hirsutum. Stylus filiformis ca. 4 mm. longus.

Nom. Jap. *Kurobosi-konasubi*.

Hab. Higasinokō, Nōkōgoe, Jul. 11. 1930. (Leg. Y. KUDO et K. MORI no. 34!)

(2) *Ligustrum nokoensis*, MASAMUNE et MORI sp. nov.

Frutex racemosus. Ramulus omnis glaberrimus, sed floriferus vix breve

Nom. Jap. *Ityo-sida*.

Hab. Taroko, Mart. 14, 1932 (Leg. TATEWAKI et KITAMURA)

(19) *Dendrobium tosaense*, MAKINO, var. *Pere-Fauriei* (HAYATA) MASA-MUNE, comb. nov.

Syn. *Dendrobium Pere-Fauriei*, HAY., Ic. Pl. Formos. VI. p. 70 (1916)

Nom. Jap. *Horiisckoku*.

Hab. Formosa.

(to be continued)

南日本植物考一

正宗 敏 敬

摘 要

(1) 先日故工藤教授及森氏の能高にて採集された標品の整理をして居た時、コナスビに似て、花瓣及萼片に黒點の有る物を見出した。そして又此の植物は、コナスビと異り、莖も小さく、節から根がよく下して居るので、此を新種と考へ、學名を *Lysimachia nigropunctata*, 和名をクロボシコナスビとした。

(2) 同一の採集品中に内地産のイボタに似て、毛の少なく、殊に葉には全く此を缺く物を見出した。新種と考へられるので、*Ligustrum nokoensis* の學名と、ノウカウイボタの和名をあたへた。

(3) *Cotoneaster marrisonensis*, HAY. 即ちコケモモカマツカと、ロクジャウカマツカ *C. rokujodaisanensis*, HAY. とは主として其心皮の 2 なる と 3 なる とにより區別されて居たが、此種に於ては、心皮は 2 から 6 位までがあるので、區別の必要を認めない、同一種と考ふべき物ではあるまいか。

(4) フトミノサカキ (*Eurya Matsudai* HAY.) は *Sakakia* 屬に入るべき物と考へる。

(5) 京都大學の植物標本中に居られる北村理學士が、臺東王里にて採集された、*Eulophia* 屬の一種は、タカサゴヤガラ (*E. taiwanensis*, HAY.) に似て居るが、非常に小形の物であるので、此を新種と考へ、同氏を記念する爲に、*E. Kitamurai* なる學名をあたへ、和名をヒメタイワンヤガラとした。

(6) 臺灣に於て普通に見られるオホバコは、其染色体数が、體細胞に於て普通のオホバコは 24 あるのに、此物に於ては、36 あり。即ち triploid をして居るので、此はオホバコとは異なる物であらうとの尙注意を、立石講師より受けたので、よく調査してみると、全莖の形がオホバコより大きく、種子も多いので此新種と考へ、*Plantago formosana* なる新學名と、タイワンオホバコなる和名をあたへた。圖は染色体を染した物。



Plantago formosana

(7) 余が先に本誌に於て發表したリウキウツハブキは變種をやめ、新種とする事にした。

(8) ヒメイハカガミは、屋久島山頂に産する小形の物で、イハカガミとは非常に異つた物であるから、余は此を新種と考へる事にした。

(9) 臺灣、及支那に産し、今日までシュロサウ (*Veratrum nigrum* var. *japonicum*) と考へられて居た物は、此の學名に相當する物とは、全然別種と考へられるので、新しく此には *Veratrum Kudoi* なる學名と、タイワンシュロサウなる和名をあたへた。